

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		かのゆめ花推進事業費			担当所属	鹿) 地域政策課		
基本情報	分野	3 地域づくり		事業期間	令和2年度 ~ 令和4年度			
	基本施策	1 地域コミュニティの活性化		会計種別				
	推進施策	1 地域の夢プランの推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	地域住民、来庁者、職員						
	意図	市民活動や地域福祉拠点であるコアプラザかのの周辺に地域住民が環境整備を行うことにより、拠点に対する意識づけや地域の景観形成、また、市民活動意識やおもてなしの心の醸成を図る。						
	成果	市民活動や福祉拠点としての意識が高揚する。草刈り作業が軽減し、地域の景観形成が図られる。地域の夢プランが実現し、市民活動への参画意識やおもてなしの心が醸成された。						
	手段	市民活動や地域福祉拠点であるコアプラザかのの周辺に地域住民が芝桜を植栽し環境整備を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込
		芝桜植栽面積		㎡	0	360	360	400
				㎡	0	360	360	-
				%	-	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算	
	トータルコスト		0	0	3,282	3,261	3,261	
	事業費		0	0	420	420	420	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	209	209	210	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	69	69	70	
		一般財源	0	0	142	142	140	
	人件費合計		0	0	2,862	2,841	2,841	
	正職員		0	0	2,862	2,841	2,841	
	正職員以外		0	0	0	0	0	
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.40	0.40	0.40		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	急激な児童生徒の減少により学校周辺の環境整備が滞り、明るく元気な鹿野をつくる会の夢プランが令和元年度に策定され、地域の学校サポートの機運が高まった。							
	現状の周辺環境							
評価	今後の予想される周辺環境							
	地域住民が一体となった教育行政ゾーンでの環境整備が図られ、市民活動の活発化と地域景観が向上する。							
	評価	評価項目		評価	評価の理由			
妥当性		1. 市の関与（税金支出）		A				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A				
有効性		4. 計画の実施状況		A	多くの住民に参画いただいたが、イベント時のみならず関わる体制作りが必要である。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
効率性		8. コスト削減へのさらなる取組み		A	地域の夢プランの実現でもあるため、地域住民と計画について協議する場が必要である。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
	10. これまでの実施手段		B					
総合評価	A		地域拠点であるコアプラザかのや学校周辺の環境整備を行い、市民活動の活発化や地域の景観形成等を図ることができた。					
改革案	今後の実施方向性	維持						
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
教育行政ゾーンへの意識づけや市民活動の活性化が図られるとともに「おもてなしの心」が醸成される。								

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		コアラザかの管理運営事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別					
	推進施策	1 生涯学習推進体制の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	コアラザ鹿野の適切な維持管理を行いながら、利用者の増大を図る。							
	成果	住民が主体的で活発な活動ができる環境づくりが進められた。							
	手段	快適な地域の拠点施設となるよう、適切な維持管理に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		利用者数		目標値	人	31440	31440	22000	22000
				実績値	人	21032	8283	11450	-
		目標達成度		%	66.9	26.3	52.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		13,033	18,111	20,547	21,911	23,664		
	事業費		13,033	14,117	14,107	15,518	17,271		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	237	261	167	147	204		
		その他	176	122	116	1,824	1,924		
		一般財源	12,620	13,734	13,824	13,547	15,143		
	人件費合計		0	3,994	6,440	6,393	6,393		
正職員		0	3,994	6,440	6,393	6,393			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.55	0.90	0.90	0.90			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	平成21年2月の供用開始から医療、福祉、保健、生涯学習の拠点施設として、地域住民にも認知されてきた。また、イベント会場として利用されることもあり、親しみやすい施設となっている。								
	現状の周辺環境								
地域の拠点施設として、適正な維持管理に努めているが、コロナ禍で休館や会議等が中止となり利用者が激減している。									
今後の予想される周辺環境									
利用者の固定化から新規利用者を増やすため、また、コロナ禍の対応のため、オンラインの活用など新たな試みや新規教室の取組みが望まれる。									
評価	妥当性	評価項目		評価	評価の理由				
		1. 市の関与 (税金支出)		A					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
	3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B					
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B		コロナ禍で会議等の中止が多く、利用が少なかったため、目標を下回った。						
改革案	今後の実施方向性	維持	利用率向上のため、各種団体や個人と連携し、体験会の実施や教室などの開催に努め、周知を図っていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								
施設の利用者が増える。									

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		鹿野総合支所管理運営事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間		～				
	基本施策	3 都市拠点等の形成	会計種別						
	推進施策	2 地域都市拠点や生活拠点の維持	実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	鹿野総合支所の適切な維持管理を行う。							
	成果	住民にとって訪れやすく利用しやすい行政窓口が運営された。							
	手段	住民にとって利用しやすく懇切丁寧な行政窓口でありつつ、コスト削減に努めた総合支所の施設管理を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		庁舎業務委託件数		目標値	件	8	9	9	10
				実績値	件	9	9	9	-
				目標達成度	%	112.5	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		13,296	17,268	21,370	18,668	19,210		
	事業費		13,296	15,816	19,939	17,247	17,789		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	62	64	65	65	63		
		その他	1,035	970	992	963	992		
		一般財源	12,199	14,782	18,882	16,219	16,734		
	人件費合計		0	1,452	1,431	1,421	1,421		
	正職員		0	1,452	1,431	1,421	1,421		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.20	0.20	0.20	0.20			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	合併後、旧役場庁舎を総合支所として使用している。遊休スペースを金融機関等に賃貸し、また、総合支所としての事務所を1階に集約して住民の利便性と施設管理の効率性を高めている。								
	現状の周辺環境								
周辺環境	建築後50年が経過し、バリアフリーに対応していない等、公共施設としてふさわしくない施設となっている。しかも耐震性に劣ることから、安心・安全な拠点施設として建物自体の更新が望まれる。								
	今後の予想される周辺環境								
	建物施設の老朽化が著しく、対応が追いつかない状況にあり、外壁の落下やトイレ、冷暖房装置の故障など、安全性や職員・市民の利用環境にも影響している。								
評価	妥当性	評価項目		評価	評価の理由				
		1. 市の関与（税金支出）		A					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
	3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A					
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		C					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		C	老朽化が著しく、修繕費が高んでいる。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		C							
総合評価	B		施設の老朽化が著しく新庁舎完成までに一定の修繕費は必要と思われる。						
改革案	今後の実施方向性	維持	老朽化した施設であるが、新庁舎完成まで委託業務の見直しや光熱水費のエネルギー削減など経費節減に努め、適正に維持管理していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
適正な維持管理を行うことで、地域住民に安心・安全を提供することができる。									

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		鹿野総合支所整備事業費			担当所属	鹿) 地域政策課			
基本情報	分野	9 都市経営		事業期間	令和4年度 ~ 令和6年度				
	基本施策	3 効率的かつ効果的な行政マネジメントの推進		会計種別					
	推進施策	5 公共施設等のマネジメントの推進		実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	来庁者、職員、地域住民							
	意図	老朽化した鹿野総合支所を新築整備する。							
	成果	住民の安心・安全度が増し、効率的な行政運営が図られる。							
	手段	関係課と連携して迅速な進捗に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		進捗率		目標値	%	0	0	2	15.8
				実績値	%	0	0	2	-
				目標達成度	%	-	-	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		0	0	0	19,372	203,028		
	事業費		0	0	0	15,820	199,476		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	2,800	77,200		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	13,000	100,000		
		一般財源	0	0	0	20	22,276		
	人件費合計		0	0	0	3,552	3,552		
	正職員		0	0	0	3,552	3,552		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.50	0.50			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境 高度経済成長期で建設が相次いで街に活気があふれていた。								
	現状の周辺環境 人口減少が進み、施設が分散していることにより街の拠点性を阻害した。								
	今後の予想される周辺環境 教育行政ゾーンの機能向上が図られ、地域住民の活性化につながる。								
評価	妥当性	評価項目		評価	評価の理由				
		1. 市の関与 (税金支出)		A					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
	3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A					
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	効率的かつ効果的な行政マネジメントに向けて着実に進んでいる。							
改革案	今後の実施方向性	維持							
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								